国立国会図書館　川村正平関係文書 95I-23

必度

君公尊　王攘夷ヲ為ス遠近ヲ
論ズ一藝ニ名ヲ者ヲハ草莽
間ヨリモ出ル故ニ上下挙テ
奉感激ス君ハ一介狂夫ニ若ル曝
ヲ至誠ヲ昌尊歳ニ大ル遺昭王ハ
郭槐ヨリ初メ千里ノ馬ヲ求メシト
欲セシ時ヲ先ル死骨ヲ買フ
ヨリ賤学短才ノ狂夫忌諱ヲ
渡ル不孝存等我ガ罪ヲ犯シ
奉敢言ス
君公天下ノ後見タラン一日海内
蓬ヲ攘夷鎖港ハ方寸ノ中ニ在
不日
皇国真正ノ武威海外ニ輝キ
事ヲ奉渇望ス交大家遠慮ノ人
心故ニ廟堂池張シ第暑モ
苟安ニ属ス夷賊ニ数多ノ償
金ヲ渡ス
皇国莫大ノ恥辱ヲ増ス私ノ事ヲ
為ス私ノ如ク振ル我ガ
其後ヲ度ヲ上陸何ヲ五新ノ
功績公武ヲ永久ニ基本ヲ
建ル義ヲ不得窺ノ者ヲ滞
京ヲ振湯防禦ヲ為ス勅ヲ
至ル以ル攘夷鎖港ノ事ヲ
傍観シ安ンズ都ヲ報ヲ
ヲ直捕撃戮ス形勢ヲ
是餓虎ニ我肉ヲ与フルノ部論ヲ
為ス鶴蚌シ愛既ニ黠夷ノ欲
術中ニ陥ル長大息ス

国立国会図書館　川村正平関係文書 95I-23

ハ傍観し安んじ却て報国の志
しを遮捕撻戮に形勢に於ては
是餓虎に我肉を与ふるの節義
なるべし鶺鴒の憂既に黠夷の欲
し術中に陥いるを長大息外
患の内憂と記す事畢竟外患
なしとして引部事業に先
ず一分の志を義士内憂を消す
迚も顛倒し為に於て携夷
談港し策は更張なるを決心報国
し長州に於ては嘉賞を遂築波山に
浪士伝討を以却て談港に為
彼を強房富潮に場に成
せり先第一談港に命外夷殺
ふ法て則彼に甘心故死を所の
掃攘し念を下に強引なる事人
無八一隅者なし男士に於て共
故寛大し示を時世なる事を
依て平に徹勅を松宗大如守殺
を復職せり所付も早く横須
談港を以一変を
君公八京師に在て当御勢を強指
遂に強督し職掌に貴なる事
策為諸し策八然も一先関東に
其向なし横須談港し策特に
擔為なる上八奉恐 宸襟下八蒙
生倒懸を以救ひ安らん八乃国家社
稷安危八鬼と角も国體難却
至策と奉考に世の狂夫
を出至痛大息し後奉言上に
恐惶頓首再拝謹言